

仕事の学校

日程：2011年3月26日(土)～3月29日(火)
場所：国立オリンピック記念青少年センター
(東京都渋谷区)



仕事をしているいろいろな人。

楽しそうに仕事をしている人、つまらなさそうに仕事をしている人。
仕事をしてうれしそうの人、仕事をしてつらそうの人。
同じ仕事をしていても、どうやら感じ方は人によって違いそうだ。

わたしも、おとなになる。
そして、仕事をするようになる。
どんな仕事を？
どんなふうに？

「仕事」を通して自分について感じて、語って、考えてみませんか。

仕事力の前に、仕事観

最近、世の中には「〇〇力」という言葉があふれています。
学校でも、会社でも「力」が求められ、多くの人が力をつけようと必死になっています。

力があれば、強くなれる。強くなれば、勝てる。勝てば、幸せになれる。
でも、本当に「力」だけを身につければ、幸せになるのでしょうか。
「力」を身につけた人が増えれば、この世の中は良くなるのでしょうか。

仕事の学校は、「仕事力」をつけるその前に、「仕事観」を大事にします。
仕事観。つまり、僕が・わたしが、誰かに何かをするとき大切にしたいこと。

一人ひとりの「大切にしたいこと」を、全国から集まる仲間と共に、
春休み中の4日間で、じっくりたしかめてみませんか。

主催：仕事の学校実行委員会

〒107-0061 東京都港区北青山3-6-7 青山パラシオタワー11階

株式会社音別内 仕事の学校実行委員会

Web : <http://www.shigotonogakkou.net/> Mail : info@shigotonogakkou.net

2011年「仕事の学校 中高生クラス」実施概要

日程	2011年3月26日(土)～3月29日(火) ※全日程にご参加ください
場所	国立オリンピック記念青少年センター 〒151-0052 東京都渋谷区神園町3-1
参加費	10,000円(税込み) ※期間中の食事、宿泊代、プログラム費用の一切を含みます ※実施場所までの交通費は、自己負担となります ※本事業の運営費については、仕事の学校「社会人・大学生クラス」の収益が充当されています。
募集人数	中学校1年生～高校3年生 (2010年度) (1992年4月2日～1998年4月1日生まれの12～18歳まで) 男女20名程度(最少催行人数は6名を予定しています。)
応募条件	<ul style="list-style-type: none"> ・応募者本人が強く参加を希望し、保護者も「仕事の学校」の趣旨に賛同している ・3泊4日の集団生活を過ごす意思がある
応募期間	応募〆切 2011年3月1日(火) ※消印有効です。申し込み人数が定員に達した場合、3月1日より前に〆切いたします。
応募方法	<p>以下の2つ、いずれかの方法でお申込みください。</p> <p>1 「仕事の学校」ホームページにある「申込書」をダウンロードしてください。 URL : http://www.shigotonogakkou.net/download/entrysheet.pdf 印刷ができない場合は、資料をお送りすることもできます。 上記ホームページ、またはメールでお問い合わせください。 Mail : info@shigotonogakkou.net</p> <p>2 「申込書」を2011年3月1日(火)(消印有効)までに、下記住所へ送付してください。 送付先 : 〒107-0061 東京都港区北青山3-6-7 青山パラシオタワー11階 株式会社音別内 「仕事の学校実行委員会」宛</p>
主催	仕事の学校実行委員会 URL : http://www.shigotonogakkou.net/

●集合・解散場所と時間について

集合・解散ともに国立オリンピック記念青少年センターを予定しています。集合時間は3月26日(土)10時、解散時間は3月29日(火)15時を予定しています。(時間は変更の可能性がございます)

●参加費のお支払について

ご参加が決定しましたら、事務局からお送りする資料の中に、「お支払についてのご案内」を同封いたします。この案内に記載されている期日までに所定の金額をお支払いください。

4日間の学びとテーマ

自分、仕事、社会、未来などのキーワードを軸にワークショップ形式で学びます。ワークショップ形式での学びは、一方的に教えられたり、全体で一つの正解を出したりするのではなく、参加者相互が互いにやり取りをしながら、自分なりの回答を探ったり導き出していきます。「仕事観察」「どんな〇〇に」「50年前の仕事、50年先の仕事」「楽しい仕事、楽しくない仕事」「わたしが大切にしたいこと」などのテーマを取り扱う予定ですが、参加者からのリクエストやその時の状況で、内容もダイナミックに変更します。

4日間で大切にすること

- 参加者が安心して過ごせる関わりや運営を大切にします。
- 何かを教わったり覚えたりする（教えたり覚えさせたりする）ことよりも、自分の腹と心と頭で考えたり感じたり思ったりすることを大切にします。
- 「仕事」をテーマに自分自身の思いや感じたことを書いてみたり、他の人に伝えたりすることで、これから大切にしていきたいことを参加者一人ひとりが再確認し、わかちあうことを大切にします。

仕事の学校スタッフ

仕事の学校実行委員会は、有志によって構成されている任意団体です。これらのスタッフが様々な形で準備や期間中に関わります。

<p>本城 慎之介（ほんじょう しんのすけ）</p>  <p>1972年 北海道生まれ。楽天株式会社創業に参画し、取締役副社長を務める。その後、公立中学校長を務めるなど教育をテーマに活動。現在、(株)音別代表取締役、学校法人や奨学財団の理事、企業の社外取締役等も務めている。軽井沢に住み「森のようちえんぴっぴ」で野外保育の活動にも携わる。</p>	<p>木元 伸一（きもと しんいち）</p>  <p>1960年生まれ。慶應義塾大学を卒業後、株式会社資生堂に入社。主に流通、営業分野の業務を担当、2009年円満退社。その後、Zenビジネスデザインを設立し、経営コンサルタントとして経営指導、講演活動に入る。また実際の企業経営にも直接携わる。大学の講師なども。</p>	<p>井上 晶（いのうえ あきら）</p>  <p>1967年生まれ。慶應義塾大学卒業後、住友信託銀行株式会社に入社。企業年金・経営企画などを担当後、現在は海外機関投資家の資金運用にかかわる仕事を担当。</p>
<p>長尾 彰（ながお あきら）</p>  <p>1975年生まれ。静岡県富士市出身。東京学芸大学を卒業後、組織開発ファシリテーターとして数々のチームビルディングプログラムを手がける。現在はしている株式会社と Educational Future Center に在籍。</p>	<p>辰巳 真理子（たつみ まりこ）</p>  <p>1981年生まれ。関西学院大学在学中から、NPO法人プレーンヒューマニティーに所属。卒業後は職員として勤務。現在は、NPO法人ETICに所属する傍ら、ワークショップ・その他楽しそうな仕事の事務局を務める。</p>	<p>鈴木 佐知（すずき さち）</p>  <p>1987年生まれ。東京女子大学卒業後、いくつかの団体の広報・運営全般を担当。現在は(株)アムにて、企業・NPOのマーケティングコンサルなどを行う。仕事の学校期間中が第一子出産予定日？！</p>

参加者と保護者の声

過去3回の高校生クラスに参加した高校生と保護者の声をご紹介します。

Q 参加者のみなさんへ、仕事の学校で印象に残っていることや6日間どう感じたか教えてください。

他人だから話すことはなかなか難しい、けど面白い。別に相手を自分の意見と同じにするのが目的ではないし、自分も考えながら探り探り話しているので、意見がしっかりしているわけでもない。それでも、自分の頭の中にあることは自分の口から出ることはないから、だらだら喋っていても、全部自分の言葉なんだと思った。結局、目に見える範囲でしか世界を見ていなかった私が思ったのは、自分の価値観を広げるには、他人の価値観に触れるしかないんだということ、そしてそのためには、伝わらなくてもいいから伝えようとするのが大事なんだということです。(高2女)

出会った人がみんないい人だったこと。黙っていてもOKだったこと。でも時間がたったら、たくさん話せるようになったこと。仕事って何なのかさらにわからなくなったこと。でも答え出さなくても今はいいかって思ったこと。そして、ヒントをたくさん得たこと。近づけたかなって思えたこと。自分も考えればこんなに色々な考えが出せるのかって思ったこと。頭いたくなるくらい普段使わないようなところの頭を使ったこと。(高1女)

Q 保護者のみなさんへ、仕事の学校のあと、お子様とどのような会話をされましたか。

普段あまり親とは話さない息子が、迎えの車から堰をきったように話したので驚きました。「今までの自分が、17年間しゃべってきたのと一生かけて話をするのと同じくらい差があった。(?)」とっていました。つまり今までの自分の一生分しゃべってきたよということでしょうか。じっくり話をするのが多かったと話してくれました。「自分を見つめる良い機会になった。」とも話してくれました。又まわりの人に自分が何をしてあげるかを考えた、そうです。自分が考えたのは「元気」なのだとしていました。(高2男・保護者)

仕事の学校について「不思議な学校だったよ」と。「何が不思議」だったのかというと、「学校では、体験や話し合いをすると必ず後でまとめて発表する時間があるのだけど、仕事の学校ではそれが全然無かったんだよ!」とのこと。最初から発表するつもりで、更にそれに対して評価されることを意識すると、求められている答えや言葉を探してしまうことがある。じっくりと、自分は本当はどう感じているのか?何を考えたのか?こんなに時間をかけて、ゆっくり深く考えてみたことは無かったそうです。貴重な時間を過ごした様だねと、そんな会話をたくさんしました。(高1女・保護者)

Q 保護者のみなさんへ、参加後のお子様とどのような変化がありましたか。

人前で意見を言うことが苦手だった彼女が今回の体験後、早く学校に行って人前で自分の意見を言ってみたいなあ、と言った事には驚きました。5泊6日の体験のすべてが鮮烈で彼女の全身に刻み込まれたようです。以前に比べ、実のある会話ができるようになりました。(高1女・保護者)

表情が明るくなりました。以前より家族と同じ空間にすることが多くなりました。(一人で部屋に閉じ籠っている事が多かったのですが…)以前より父親の質問に素直に答えていて、話もしている感じです。いろんな人の考え(方)を聞くことができ良かったと言っていました。話を聞こうという姿勢もできてきたようです。(高2男・保護者)

自分のまわりで行われている仕事…今まで無意識だったことに“気づき”が生まれてきているようです。いつも行くコンビニの店員さん、本屋の店員さん…etc お金をもらって働いているというだけでなく、そのもっと奥にあるものを意識できるようになりはじめてきたように思えます。(高1男・保護者)

年 月 日

申込者

(参加希望者本人自筆)

「仕事の学校」参加申込書

私は、2011年「仕事の学校 中高生クラス」に参加を希望するので申し込みます。

フリガナ				年齢	性別
氏名				歳	男・女
生年月日	19 年 月 日				
住所	〒				
電話番号 (自宅)			携帯番号 (本人)		
携帯番号 (家族)					
パソコン メール	(本人・家族)				
携帯 メール					
事務局への質問などがあれば、ご記入ください。					

同意書

私は、上記参加希望者が「仕事の学校」に参加申し込みすることに同意します。

保護者

(参加希望者保護者自筆)

(事務用欄)

受付日	確認印

裏面にも記入欄があります。

年 月 日

申込者 _____

「仕事の学校」への参加動機など、自由に記入してください。